

草津白根火山、本白根山2018年噴火の放出岩塊による被害調査の速報 Preliminary report on damage caused by the ballistic ejecta of the 2018 phreatic eruption of Motoshirane volcano

*吉本 充宏¹、本多 亮¹、小森 次郎²、石峯 康浩³、山田 浩之⁴

*Mitsuhiro Yoshimoto¹, Ryo Honda¹, Jiro Komori², Yasuhiro Ishimine³, Hiroyuki Yamada⁴

1. 山梨県富士山科学研究所、2. 帝京平成大学、3. 鹿児島大学地域防災教育研究センター、4. 防衛大学校

1. Mount Fuji Research Institute, Yamanashi Prefectural Government, 2. Teikyo Heisei University, 3. Research and Education Center for Natural Hazards, Kagoshima University, 4. National Defense Academy

草津白根山本白根火山は1500年ぶりに活動し、水蒸気噴火を起こした。この噴火では放出火山岩塊によって1名の死者と11名の負傷者がでた。放出火山岩塊による被害は、本白根火山鏡池北火砕丘の500m北～北東を通過するロープウェイの山頂駅や搬器に及んでいる。従業員による証言では、山頂駅では少なくとも3カ所天井が貫通している。噴火時には、50器が運行されており、そのうち28器が山麓駅に22器が山頂駅に格納された。本調査では、山麓駅に格納されていた40器のうち噴火当時使用されていた28期の被害状況を調査した（調査日は1月26, 27日）。上り下り合わせ9器の搬器に噴石による破損が見つかり、その他13器には火山灰の付着が見られた。特に損傷のひどかった搬器は火口側の側面の窓が全損、ケーブルへの接続部の変形、搬器自体の床を貫通した跡が見受けられた。また、9器のうち3器は火口と反対側の側面にも損傷が見られた。そのほか天井部を噴石が貫通した搬器も確認された。本発表ではこれらの搬器の被災状況について紹介する。今後、搬器の詳しい被災状況調査を実施し、放出火山岩塊の着弾速度など解明につながるデータを収集する予定である。

キーワード：草津白根火山、放出岩塊、火山災害

Keywords: Kusatsu-Shirae Volcano, ballistic ejecta, volcanic disasters